

令和7年度 羽村市立羽村第一中学校経営方針

令和7年4月1日
校長 三浦利信

はむらの学校教育 「全ての子供のよさと可能性を引き出し、伸ばす」

- 目指す学校像 ①子供が学ぶ喜びと自信をもてる学校 ②保護者・地域から信頼される学校
③チーム力を生かし、主体的に課題を解決する学校
- 目指す教師像 ①共に学び続ける教師 ②師弟同行・率先垂範する教師
③子供の自尊感情を高める教師
- 目指す子供像 ①主体的に学ぶ子供 ②励まし合い、支え合い、高め合う子供
③自己実現に努める子供

I 学校教育目標

未来に生き、未来に働き、未来を創造する、心身ともに健康な人間を育成する。

○みずから鍛える ○ひろく思いやる ○すすんで考える

「第二次羽村市生涯学習基本計画」、「はむらの学校教育」をふまえ、令和の日本型教育の推進、GIGAスクール構想等の教育課題に柔軟に対応し、本校の歴史と伝統を大切にし、「誰にも優しい学校」、「互いに認め合える学校」を目指して、教育活動を進める。

II 目指す生徒像

教育目標	「みずから鍛える」	「ひろく思いやる」	「すすんで考える」
目指す生徒像	自己実現を目指す生徒	感性豊かな生徒	学ぶ意欲に富む生徒
(第1学年)	自分の生活を改善するため努力できる生徒	周囲への感謝、思いやりを表現できる生徒	積極的に考え、判断し、表現できる生徒
(第2学年)	学校生活をよりよくするため努力できる生徒	周囲への感謝、思いやりを実践できる生徒	他者との交流で自己の考えを深められる生徒
(第3学年)	将来の目標実現に向けて努力できる生徒	相手の立場で考え、尊重し、助け合える生徒	課題を見つけ、解決に向けて取り組める生徒

III 令和7年度の教育活動にあたって

「誰にも優しい学校」 「互いに認め合える学校」

上記の2つのキーワードを目標とした教育活動は継続3年目を迎えます。成果が数値等には表れにくい目標ですが、学校全体としての取り組みにより、アンケートや地域からの声に手ごたえを感じることができています。

義務教育9年間のまとめである中学校段階として、生徒・教職員等が生徒同士、生徒と教員、教員と保護者、教員同士などの場面で、他者受容と自己承認を重視した「コミュニケーション（関係性）」を大切にするために、羽村一中の教育活動は、引き続き、「誰にも優しい学校」、「互いに認め合える学校」を常に意識して進めます。

Ⅳ 令和7年度に重点的に取り組む内容

- 1 今までの教育実践に積み上げ、3年間のコロナ禍の経験も踏まえ、学校として大切にしたいことを明確にして、ブラッシュアップした教育活動を進める。
- 2 チーム学校を意識した教育活動を進める。
チーム〇年〇組、チーム〇学年、チーム職員室、チーム学校（保護者・地域等）
- 3 5つのワークを大切にしたい学校経営を継続する。
 - ① ヘッドワーク（知識） それぞれが、必要な知識を身に付ける
 - ② フットワーク（行動） それぞれが、まず動いて、その後考える
 - ③ チームワーク（協働） おたがいが、他者を尊重し、支え合う
 - ④ ネットワーク（人脈） おたがいが、知りうる人脈を共有する
 - ⑤ ハートワーク（心づかい） おたがいが、働きやすい職場とつくる
- 4 生徒の多様性を尊重し、集団生活を踏まえた上で、柔軟な生徒指導、個別対応を進める。
- 5 生徒が社会の主役となる10年後を見据え、GIGAスクールタブレット等の一層の活用を図り、授業場面以外でもタブレットがあることが当たり前の教育活動を進める。

Ⅴ 学校の教育目標を達成するための基本方針

- 1 「みずから鍛える」生徒を育成するために
 - (1) 自己理解、望ましい勤労観・職業観の育成などに向けた教育活動を実践し、将来の生き方を考える活動や社会的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けさせる
 - (2) 体験的な学習や地域との協働等の特別活動、道徳授業を中心に、規範意識を醸成させながら、生徒の自尊感情や自己有用感、他者との望ましい関わり方を養う。
- 2 「ひろく思いやる」生徒を育成するために
 - (1) 共生・共存を柱とした人権尊重教育を推進し、自分の大切さとともに他人の大切さを認められる、心豊かな人間の育成を目指す。
 - (2) インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、「連続性のある『多様な学びの場』」の確保、個に応じた指導・支援の充実、特別支援教育の充実を図る。
- 3 「すすんで考える」生徒を育成するために
 - (1) ねらいを明確にした指導、1人1台端末をはじめとするICT機器の効果的な活用等を進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善を推進する。
 - (2) 各教科における基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、教育活動全体において読解力の育成に取り組み、知識・技能を活用した言語活動等の充実を図る。
- 4 「社会に開かれた教育課程」を実現するために
 - (1) 地域との連携、交流、協働を実践するとともに、地域活性の拠点校としての役割を担う。併せて、学校便りやホームページを通して情報を発信し、教育活動に対する理解や協力を深める。
 - (2) コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会で、学校の経営方針や教育課題、学校評価などを協議し、実践的な課題改善をととして学校運営の充実を図る。
 - (3) 学校の喫緊の課題である不登校並びに不登校傾向がある生徒対応について、地域の力を活用し、個々の状況を把握しながら組織的に対応する。